

# 中田かわら版 6月号

～中田地区の地域活動をお知らせします～

発行：中田連合地区経営委員会

協力：中田連合自治会 泉区役所

制作：中田かわら版制作編集委員会

横浜市踊場地域ケアプラザ

## ■この人に会いたい<17>

### 生涯学習50年 前田重一さん（98歳）中田南

「オンチョウ・シレン、いまの私の生活です」

「オンチョウ？どういう漢字ですか」私は恥じらいもなく前田さんに聞き返した。差出した私のノートにすらすらと書いてくれたのが「恩寵的試練」。さらに感謝、英知、勇気、自己反省、他人をせめない、などの文字も付け加えられていた。いまどき恩寵など正しく書ける人は少ないだろうし、まして生活の中にこれらを実践している前田さんの生き方、人間性を改めて知ることになった。前田さんがモラロジー生涯学習と深く関わっていることは知っていた。モラロジーとは道徳



(m o r a l e) と論理 (l o g i c a l) の合体語であることや、1926年(大正15年)、法学博士・広池千九郎氏がモラロジー研究所を設立。親から子へ、子から孫へ世代を超え、人間性・道徳性を育くむ「累代教育」を目指す教育団体ということも。前田さんは40代に入会し50年以上続け、現在も参与として活躍している。

一方、私たちが知っている前田さんは中田連合で保健衛生部長としての実績や活動であろう。昭和61年から11年間、行政と地域の双方にわたる活動は伝説的だ。それは数々の表彰状、感謝状に表れている。

平成4年10月、横浜市保健医療に尽力し市長から功労賞(高秀 秀信)

平成8年10月、公衆衛生向上に寄与し、厚生大臣賞(菅 直人)

平成9年3月、中田連合自治会の理事10年以上の在任者におくられる感謝状など、輝かしい活動ぶりが光る。前田さんが保健衛生部長になったキッカケは、ある会合で出会ったのが当時連合会長の奥津喬雄さんだった。いろいろ話をしている中で、前田さんが衛生管理士の資格を持っていることを知り、連合の保健衛生部長に推薦された。

前田さんのもう一つの功績に宇田川に代わって「村岡川」の名称復活と川に懸る12橋の命名がある。公式文書「皇国地誌」の汲沢の項には「村岡川ト称ス、中田村山間ニ発シ」とある。平成9年7月、「村岡川を愛する会」が発足。時の泉区長、上村信義氏が「宇田川の12の橋に名前がない、地域の皆さんのお知恵を借りたい」の発言もあり、その後全長3.83キロの川に卯月から霜月(11月)までの暦月の名がつけられた。師走がないのは7番目に「かばた橋」(かばた遺跡が出た所)が入っているため。もちろん、前田さん一人がやったわけではないが、泉区歴史の会の会員であった前田さんが会報「郷土いずみ」4号で詳しく書いているのであえて名前を出させていただいた。

前田さんの戦争体験の話が印象的だった。陸軍兵長・前田さんら約1000人を乗せた輸送船が、シンガポール沖で敵の潜水艦の魚雷を受け轟沈。翌日味方の船で救助されるまで一昼夜、水上で頑張った。残ったのはたった100人。その中に前田さんがいた。九死に一生を得た、この時の体験はその後の生きる原動力になっている、と前田さんはいう。

前田さんの知られざる一面を最後になるが、紹介しておく。昭和15、6年ごろ、与謝野晶子の弟子の高橋英子女史から短歌を教わり彼女が主宰する「房花」に投稿し、活躍した文学青年であったこと。その情熱はいまも続いている。泉区老連の機関紙『あやめ』の文芸欄の短歌に毎号投稿している前田重一さんこそ、その人である。戦争で一度は死にかけた身、「残された時間を人のために尽くしたい」。前田さんの強さ、元気の秘訣はいつも感謝、英知、気力が失われていないからだろう。(編集委員 宮田貞夫)

～一人ひとりがCO<sub>2</sub>を減らす努力をし、美しい地球を子どもたちに残そう！～

# 7月のイベント

このチラシの情報をより詳しく知りたい方は、踊場地域ケアプラザ 葛西（かさい）まで問い合わせください。

TEL 801-2114 FAX 801-2923

## 【第41回子ども水泳教室】

開催日：8月5日(水)～9日(日)9:30～11:30（1回目は9:15より開講式）

場所：中田小学校プール 受講料：3000円

対象：小学2～6年生100名（5日間参加の方優先）

主催：泉区スポーツ推進委員連絡協議会

問合せ：090-2442-5847 渡部まで

※参加受付は、7月12日(日) 11:30～12:00 中田小学校で行われます。参加者が定員を超えた場合は、抽選になります。

## 【あさがお・ほうずき市】

開催日：7月4日(土)・5日(日)

雨天決行

時間：9:30～17:00

会場：花や館いざわ



主催：中田花卉組合

中田連合自治会

中田地区社会福祉協議会

## ■向根下自治会創立50周年を迎えて

向根下自治会が創立50周年を向かえることができましたのは、自治会の運営に協力、ご支援いただいた諸先輩・自治会員の皆様のおかげです。厚く御礼申し上げます。

昭和40年5月向根下自治会創立（根下自治会より分離独立）、当時の世帯数190。初代自治会長石塚義一氏。私が生まれた当時“向が原”とか“向かい”又“向原（むこうはら）”とも呼ばれた。東方は「げんばあらく」。その昔、玄蕃守の城址で今の“ひがしが丘”あたり、又太平洋戦争時は、“白百合”に海軍桑原部隊の高射砲陣地があり、南方は、日立・社宅等が林立。西方は中田小学校（桑原部隊練習場に兵舎が有り）、根下・中西・笹山（広町）・下（下村）。北方は、中村があった。当時、向根下自治会は辺り一面田んぼばかり、遠くに大山・富士山を眺望し、夏はカエルがうるさいくらい鳴き、夜は暗く外灯や道路事情が悪いので自治会活動は砂利撒き・外灯の設置に追われていた。又ゴミ収集後はミケドウル（消毒液）を配布。広報・回覧のことなど子どもの頃から見ていた。創立50周年を迎えた今、世帯数は830を越えた。



平成11年8月、住民待望の市営地下鉄が開通し、長後街道の拡幅工事（4車線）も18年にほぼ完成した。これに伴い町内にアパート・マンション等が急増したため、自治会は「中田駅」の開設を前に周辺の町内にアパート・マンション等が急増したため、自治会は「中田駅」の開設を前に周辺の町内会及び関係者の協力を得て（泉区役所肝いり）「自転車等放置防止推進協議会」を設立。歩行者の安全と駅周辺道路の美化運動等を実施している。

向根下自治会は、中田駅を中心に生活基盤が整い、飛躍的に便利になりました。世帯数は増加する一方ですが、自治会への関心が薄く未加入世帯も多く会員との地域交流に腐心している。そこで子ども・百寿会・スポーツクラブ・商店会の協力をいただき、春は運動会（防災訓練）、夏は盆踊り大会、秋は地域のイベントに参加し、冬は福祉餅つき大会等を開催し、地域の会員と子ども達との親睦と交流の絆を大切にしています。

一方、中田駅近くに“中田交番”が設置され、地域住民の意識の高揚により防火・防犯対策に好影響を与えている。地震等の災害対策も、中田拠点防災を中心に訓練を重ねている。又防災倉庫の備蓄品の充実を計り、私たちの命は自分で守る。日頃から近隣相互のふれあいと助け合いを大切に、前進していきたいと思っています。

（寄稿 向根下自治会長 渡邊正明氏）

「中田白百合地域情報サイト」にて地域の最新の情報や、かわら版バックナンバーなどを調べることができます。[www.odoriba-cp.jp](http://www.odoriba-cp.jp)へアクセス！！